

# 高等部 3 年間で教えるべき生活知識を考える

會澤加奈子、尾高邦生、瀧山孝司、小金井俊夫、高野裕美、仲野宏樹、西尾真弓  
松本 晃、宮坂美帆子、山本由佳、吉澤洋人、渡邊 聡  
奥住秀之(東京学芸大学)、濱田豊彦(東京学芸大学)

## I はじめに

### 1. 生活支援「くらし」について

高等部では、平成15年度より生活支援「くらし」の授業を設定している。本校生徒1人1人のライフステージ全体から考えると、学校生活から地域生活への橋渡しとなる高等部においては、個に応じた移行を実現するために効果的な学習を進めていく必要がある。移行支援に関する学習は、単に進路先決定という指導だけではなく、高等部段階での学習として本人の生活全体を考慮した学習内容を準備することが求められている。卒業後の生活について、生徒が希望する自分自身にあった生活のスタイルを考え、主体的に自分の生活を選択していくことが、卒業後の生活をより豊かなものとするものとする。卒業後の生活の仕方、さらには自分自身の生き方について具体的な体験を通す中で学習し、個々人にとって必要な情報について考え、自分にあった生活を主体的に選択し経験を学習が、独自の授業内容を持つものとして独立した授業形態を取ることが必要であると考えた。

生徒達の中には将来、「このまま親と一緒に暮らしていきたい」というものもいるが、「一人暮らしをしたい」「友達と一緒に暮らしたい」という生徒もいる。保護者もいつかは誰かの手にゆだねる時期が来るとい現実を、学年が進むにつれて実感するようになる。しかし現実には家庭の中で生徒達は、何かを「してもら生活」が多く、自分が「主体的にくらしを創造する」ということの重要性は見えにくい現状がある。この学習では、生徒達に自分が将来どのような生活をしていくかのイメージを持たせることもねらっている。このことが、本人の将来の生活における希望を現実させていくために必要である。

上記の理由により本校では、「くらし」の時間を設定した。「くらし」の時間では、調理、被服、住まい、生活知識という4つの分野に分けて学習を行っている。これは教科「家庭」の「内容をどのようにとらえるか」という視点を参考にして考えてきたものである。このことは結果的には生徒たちや保護者の具体的なニーズを把握してきた経過で把握してきたこととも一致した。平成15年度より実践を始めた「くらし、実技編（調理、被服、住まい）」では、技能や技術面の習得が中心的内容となっている。「くらし、生活知識」では生活の主体者は自分であることを意識し、将来の自分なりの生活を考えるために幅広い知識を身につけることを計画した。

一方で本校では総合学習等の実践より「方法論の獲得」ということにも留意して学習を組織してきた。「自分から進んで行う生活」「生活の主体者は自分」ということを十分に意識して学習できるように考えるとともに、そのことを実現できるための方法論もあわせて重視することを考えた。結果以下の点に留意し、授業実践を行うように計画した。

- ・形式、内容、方法等、様々なところで選択する活動を保障、学習できるようにする
- ・選択した結果は最終的には自分自身が責任を持つということを学習する

- ・支援が必要な時には積極的に依頼を行って良いのだ、ということを経験、学習する
- ・支援が必要な時にはどのようにして依頼したら良いのか、分からない時の質問の仕方やその方法を学習する

以上のように「生活への気づき」「方法論の獲得」「主体者意識」ということを実現する内容として「暮らし」の授業を計画している。

「暮らし」の目標は、以下のように設定されている。

- 生活に必要な知識と技能を身に付け、今の生活にいかしながら、卒業後の生活への準備を始める。
- 生活の中でできることは自分でやり、必要な場合は援助を受けることを学習し、実践できるようにする。
- 自立した生活に向けての意欲を育み、主体者として生きていく素地を養う。

また各分野の目標は、以下のようになっている。

#### 調理

- 調理に関する実践的な活動を通して、生活に必要な知識と技能を身に付け、生活にいかす。

#### 被服

- 被服に関する実践的な活動を通して、生活に必要な知識と技能を身に付け、生活にいかす。
- 時、場所、目的等に応じて、清潔な服装に心がけ、生活する。

#### 住まい

- 住まいに関する実践的な活動を通して、生活に必要な知識と技能を身に付け、生活にいかす。

#### 生活知識

- 社会生活に必要な知識を得て、生活にいかしていくことができる。

### 3. 「暮らし(生活知識)」について

「暮らし(生活知識)」では、「生活知識指導内容表」(表1、表2)を作成し、指導してほしい内容について毎年保護者へアンケートを取り、その結果をもとに各学年で年間の指導計画を立てている。

しかし、この指導内容表を見てわかるように、以下のような問題点がある。

- 90項目もありそこから指導計画を立てることは難しい。
- 項目によっては、保護者が希望していないものがある。
- 内容自体が10年前に作成したままであり、現在の彼らの生活にあつたものとなっていない。

## 2. 研究の目的

2010年からの3年間、高等部では「暮らし(実技編)」について、その指導内容や評価法についての研究を行ってきた。生活知識に関しての研究は、2009年に人間関係に着目した授業づくりの研究を行っているが、指導内容そのものを見直してはいない。そこで本年度の高等部の研究では、「暮らし(生活知識)」の指導内容を見直すとともに、3年間を見通した指導計画を作成することを目的とした。

表1 生活知識指導内容表1

経済生活	I 買い物ができる	1 以下の点に留意して買い物を知ることを知る。
		①何をかうのか(必要なもの、頼まれたもの、あげたいもの等)
		②どのようにかうのか(メモをみながら、考えながら、聞きながら等)
		③どこでかうのか(小売店、スーパー、ホームセンター、ディスカウントショップ等)
		④いつかうのか(下校時、休日、夕方、朝、安い日等)
		⑤だれとかうのか(家族と、支援者と、友人と、1人で等)
		2 お金の取り扱い方を知る。(金種、財布の扱い、金額に応じた支払方法等)
		3 商品の知識を増やす。(具体物、カタログもの、抽象物)
	II 小遣い帳や家計簿を利用できる	4 買おうとするものの品質や特性について知る。(賞味期限、素材、値段、用途等)
		5 対面販売でない買い物方法について知る。(通販、テレフォンショッピング、予約購入、インターネットショップ等)
		6 商品券や割引券、割引カードや特典シール等について知る。
		7 クーリングオフや契約解除について知る。
		8 各種悪徳商法について知る。
		1 銀行や郵便局を利用する。
		2 収入について知る。
		3 貯金や預金について知る。
III 各種のカードを使うことができる	4 小遣い帳や家計簿の機能、使い方を知る。	
	5 費目について知る。	
	6 生活費の内訳について知る。	
	1 パスネット、イオカード等プリペイドカードや金券の利用の仕方を知る。	
IV 給料の使い方を知る	2 キャッシュカードの利用の仕方を知る。	
	3 お店のカード(サービスカード等)の利用方法を知る。	
	4 クレジットカードの使い方を知る。	
	1 生活に必要なお金について知る。	
	2 交際費や娯楽費について知る。	
安全なくらし	I 自分の身を守ることができる	3 郵便局や銀行の給料振込みについて知る。
		4 税金について知る。
		5 就労上の保険制度について知る。
		1 病院の機能について知る。
		2 病院のかかり方について知る。
		3 組合員証、保険証等の仕組みと使い方を知る。
		4 交通ルール、火の取り扱い、住居の防犯等について知る。
		5 印鑑や通帳など貴重品の取り扱いについて知る。
	6 危険な街や場所、人について知る。	
	II 警察や消防署を利用できる	7 困った時の対処法について知る。
		8 困った時、危ないと思ったときに相談に乗ってもらう人について知る。
		1 警察や消防署の意義や機能を知る。
	III 福祉制度を利用できる	2 警察や消防署への連絡方法を知る。
		3 警察や消防署にお願いできること、できないことについて知る。
		1 支援者やボランティアについて知る。
		2 障害者手帳について知る。
3 障害者手帳の利用、優遇措置等について知る。		
IV 保険を利用できる	4 福祉事務所や身障センターについて知る。相談システムについて知る。	
	5 親の会や社会福祉協議会について知る。	
	1 損害賠償保険について知る。	
	2 生命保険について知る。	
	3 旅行保険について知る。	

表2 生活知識指導内容表2

地域生活	I ごみを出すことができる	1 ごみの分別について知る。
		2 曜日によって、ごみの出す種類が違うことを知る。
		3 ごみを出す際のマナーについて知る。(時間帯、ごみ袋の種類等)
	II 公共施設を利用できる	1 公共施設の場所を知る。
		2 公共施設の働きを知る。
		3 市報から情報を得られることを知る。
		4 図書館の利用の仕方を知る。
		5 公民館の利用方法を知る。
		6 スポーツセンターの利用の仕方を知る。
	III 地域の各種施設、制度を利用できる	1 美容院や床屋、銭湯等の利用の仕方を知る。
		2 スイミング、スポーツジム等の利用の仕方を知る。
		3 娯楽施設(カラオケ、ゲームセンター、遊園地等)の利用の仕方を知る。
		4 その他自分の余暇と関係する施設の利用の仕方を知る。(野球場、サッカースタジアム、コンサート会場、美術館等)
		5 困った時に連絡するところ(支援者、地域ワーカー等)を知る。
		6 何かしたいときに連絡するところ(支援者、地域ワーカー等)について知る。
	IV 家族から離れた生活の準備ができる	1 色々な生活スタイルのあることを知る。(友人・仲間との暮らし、1人暮らし、結婚しての暮らし等)
2 グループホームや通勤寮について知る。		
3 アパート等での生活について知る。		
4 家族から離れた生活の実現に向けて、どのような準備をしたらよいのかを知る。		
人付き合い	I 友人と仲良くできる	1 待ち合わせについて知る。
		2 好ましい外出先について知る。
		3 いろいろな時間、場所で会うことができる。
		4 電話のマナーを知る。
		5 仲良くする内容について考える。
		6 男女交際について知る。
		7 手紙やはがき、メールのマナーと利用について知る。
		8 楽しい会話、相談について知る。
		9 新しい友人の作り方を知る。
	II 家族や親戚と仲良くできる	1 家族の役割について知る。(家事分担、支えあい、団らん、癒し等)
		2 家族からのお小遣い、家族へのお小遣いについて知る。
		3 親の老後について考える。
		4 親戚とは何かを知る。
		5 親戚への訪問の仕方、親戚とのつきあいについて知る。
	III 近所の人と仲良くできる	1 日常の挨拶の仕方について知る。
		2 人によってふさわしい話題があることを知る。
		3 住んでいる地域のルールについて知る。
		4 引越しの挨拶について知る。
		5 おすそわけについて知る。
		6 お土産について知る。
IV 冠婚葬祭に関わる知識について理解する	1 お祝い、ご不幸について知る。	
	2 祝い金、香典について知る。	
	3 場に応じた挨拶の仕方について知る。	
	4 場に応じた服装について知る。	

## II 方法

### 1. 指導内容の見直し

過去5年間の保護者アンケート(のべ約200名分)を集計し、保護者の希望が多いものと少

ないものを分類する。また学年毎に集計結果の傾向を見る。それらの結果から指導内容を絞り込むとともに、現在の生活を考慮して新たな指導内容を考え、「改訂版生活知識指導内容表」を作成する。

## 2. 指導計画の作成

作成した「改訂版生活知識指導内容表」から、学年毎のアンケート結果の特徴や各学年で必要な指導内容を考慮し、3年間で指導内容を網羅できるように指導計画案を立案する。

## III 結果と考察

### 1. 保護者アンケートの集計結果について

過去5年間のべ200名分のアンケートを集計し、その中で保護者の希望が多かった指導内容上位10位と下位10位を示したものが、表3・表4である。

表3 保護者の希望が多かった指導内容

1	困った時の対処法について知る。	65.45%
2	お金の取り扱い方を知る。(金種、財布の扱い、金額に応じた支払方法等)	54.55%
3	生活に必要なお金について知る。	53.64%
4	困った時、危ないと思ったときに相談に乗ってもらう人について知る。	51.82%
5	危険な街や場所、人について知る。	46.36%
6	色々な生活スタイルのあることを知る。(友人・仲間との暮らし、1人暮らし、結婚しての暮らし等)	41.82%
7	銀行や郵便局を利用する。	38.18%
8	グループホームや通勤寮について知る。	38.18%
9	電話のマナーを知る。	38.18%
10	ごみの分別について知る。	37.27%

表4 保護者の希望が少なかった指導内容

81	就労上の保険制度について知る。	8.18%
82	対面販売でない買い物方法について知る。(通販、テレフォンショッピング、予約購入、インターネットショップ等)	7.27%
83	損害賠償保険について知る。	7.27%
84	おすそわけについて知る。	7.27%
85	クレジットカードの使い方を知る。	6.36%
86	税金について知る。	5.45%
87	生命保険について知る。	5.45%
88	引越しの挨拶について知る。	4.55%
89	旅行保険について知る。	2.73%
90	親の会や社会福祉協議会について知る。	0.91%

これを見ると、安全に関する内容や金銭の扱いに関する内容に対して希望が多いことがわかる。また、希望が少ない指導内容は、現在の生活であまり習慣化されていない内容（おすそわけ、引越しの挨拶等）や、保護者が生徒本人と直接関わらないであろうと考えている内容（税金、生命保険等）であると考えられる。

次に学年毎の結果を見ると、以下のことがわかった。

○1・2年生で多い内容「手紙やはがき、メールのマナーと利用について知る」

○3年生で多い内容「親の老後について考える」

## 2. 「改訂版 生活知識指導内容表（案）」の作成

上記アンケート集計結果を参考に、「改訂版 生活知識指導内容表（案）」の作成を試みた。その時に、以下の点を留意した。表5に作成した「改訂版 生活知識指導内容表（案）」を示す。

○大分類を本校の教育課程である「生活支援内容配列表」の項目に合わせる。

○指導内容を絞り込む（数を減らす）。

○現在の生活や制度の変化に合わせた内容にする。

例：携帯電話やインターネットの普及

東日本大震災の発生

家庭での役割や社会での人間関係の変化

○将来的に一人暮らしをする可能性がある生徒に対応する内容を含める。

## 3. 3年間の指導計画

作成した「改訂版 生活知識指導内容表（案）」から、高等部3年間の指導計画を立案した。まず生徒の経験や学年毎の課題を考慮して、各学年の目標を以下のように設定した。

○1年生

「高校生として必要な生活の知識を得て、生活に生かす。」

○2年生

「将来の生活に必要な知識を広げ、生活に生かす。」

○3年生

「新しい生活に必要な知識を得て、準備をする。」

これらの目標をもとに、「改訂版 生活知識指導内容表（案）」から、各学年の指導内容を抽出した。その時に、3年間で指導する内容と各学年でのみ指導する内容を明確にした。また、3年生においては、将来一人暮らしの可能性のある生徒に対しては抽出したグループを形成し、そのグループで指導する内容も考えた。

各学年の指導計画（案）を、表6～8に示した。表中の◎は3年間で指導する内容、○その学年で指導する内容である。

表5 「改訂版 生活知識指導内容表(案)」

大分類	中分類	小分類	指導内容		
経済生活	くらしとお金	上手な買い物の仕方	買い物の仕方を知る。 外出に必要な費用について知る。 計画的なお金の使い方を知る。(小遣い帳のつけ方等)		
		金融機関や社会資源の利用	銀行や郵便局の機能、使い方について知る。 通帳やキャッシュカード、クレジットカード、電子マネーについて知る。		
		生活設計・金銭管理	将来の生活に必要なお金について知る。 収入と支出について知る。 生活費について知る。(家計簿のつけ方等) 自分にあつたお金の管理方法を知る。		
		危機回避・消費者教育	クレジットカードやプリペイドカード、電子マネー等の使い方と注意点について知る。 通帳やキャッシュカード、暗証番号の扱い方について知る。 お金にかかわる危機、危機回避の方法について知る。(悪徳商法、インターネット、携帯電話、個人情報等)		
	社会と経済	収入・労働と賃金	仕事と給料について知る。 給料明細について知る。		
		税の徴収と国の支出	税金の仕組み(払い方、戻し方)について知る。 税金の使われ方について知る。		
		年金とその問題	年金について知る。 年金の支払われ方や受け取り方について知る。 年金の手続きの仕方について知る。		
		流通と経済	値段の決め方について知る。 流通の仕組みについて知る。		
		貨幣の種類と価値	日本のお金、外国のお金について知る。 両替と為替、円高・円安について知る。		
	地域生活	地域のルール・資源	地域のルール	地域のルールについて知る。(ごみの分別や出し方等)	
			地域資源	自分の住んでいる地域について知る。(公共施設・娯楽施設等)	
			学ぶ・遊ぶ	青年学級・大学公開講座・スポーツサークル・アビリンピック等について知る。	
		安全・安心	防災、防犯	災害の際の身の守り方について知る。 避難の方法や避難場所について知る。 非常時・緊急時の連絡方法を知る(電話、メール、伝言サービス等)。 犯罪や事故を未然に防ぐ方法を知る。 危ないと思った時に助けてくれる人について知る。(警察・消防等)	
				病気・事故	怪我をした時の対応について知る。 病院や医院の受診の仕方を知る。
				福祉制度の利用	支援者
障害者手帳					障害者手帳について知る。 障害者手帳の利用や優遇措置等について知る。
相談機関		相談機関について知る。			
福祉サービス		障害福祉サービス(就労系サービス以外)について知る。			
家庭生活・集団生活		人付き合い	家族	家族の役割について知る(家事分担、支えあい、団らん、癒し等)。 親の老後について知る。	
	友人		待ち合わせ(時間、場所等)について知る。 好ましい外出先(場所、時間等)について知る。 携帯電話・メールの利用とマナーについて知る。 男女交際について知る。 手紙やはがきの利用とマナーについて知る。 楽しい会話について知る。 新しい友人の作り方を知る。		
			近所・職場	日常の挨拶の仕方について知る。 人や場面によってふさわしい話題があることを知る。	
		冠婚葬祭	お祝い、ご不幸について知る。 場に応じた挨拶について知る。		

表 6 1 年生の指導計画 (案)

大分類	中分類	小分類	指導内容	1年	
経済生活	くらしとお金	上手な買い物の仕方	買い物の仕方を知る。	◎	
			外出に必要な費用について知る。	○	
		金融機関や社会資源の利用	計画的なお金の使い方を知る。(小遣い帳のつけ方等)	○	
			銀行や郵便局の機能、使い方について知る。	◎	
地域生活	地域のルール・資源	地域のルール	通帳やキャッシュカード、クレジットカード、電子マネーについて知る。	◎	
			地域のルールについて知る。(ごみの分別や出し方等)	◎	
	安全・安心	防災、防犯	災害の際の身の守り方について知る。	◎	
			避難の方法や避難場所について知る。	○	
			非常時・緊急時の連絡方法を知る(電話、メール、伝言サービス等)。	○	
			犯罪や事故を未然に防ぐ方法を知る。	◎	
	病気・事故	病気・事故	危ないと思った時に助けてくれる人について知る。(警察・消防等)	◎	
			怪我をした時の対応について知る。	◎	
	福祉制度の利用	支援者	病院や医院の受診の仕方を知る。	○	
			支援者やボランティアについて知る。	◎	
家庭生活・ 集団生活	人付き合い	友人	待ち合わせ(時間、場所等)について知る。	○	
			好ましい外出先(場所、時間等)について知る。	○	
			携帯電話・メールの利用とマナーについて知る。	◎	
			男女交際について知る。	○	
			手紙やはがきの利用とマナーについて知る。	○	
			楽しい会話について知る。	○	
		近所・職場	近所・職場	日常の挨拶の仕方について知る。	◎
				人や場面によってふさわしい話題があることを知る。	◎

表 7 2 年生の指導計画 (案)

大分類	中分類	小分類	指導内容	2年	
経済生活	くらしとお金	上手な買い物の仕方	買い物の仕方を知る。	◎	
			金融機関や社会資源の利用	銀行や郵便局の機能、使い方について知る。	◎
		生活設計・金銭管理	通帳やキャッシュカード、クレジットカード、電子マネーについて知る。	◎	
			将来の生活に必要なお金について知る。	○	
		危機回避・消費者教育	収入と支出について知る。	○	
地域生活	地域のルール・資源	地域のルール	通帳やキャッシュカード、暗証番号の扱い方について知る。	○	
			地域のルールについて知る。(ごみの分別や出し方等)	◎	
	安全・安心	防災、防犯	地域の資源	自分の住んでいる地域について知る。(公共施設・娯楽施設等)	○
			災害の際の身の守り方について知る。	◎	
			犯罪や事故を未然に防ぐ方法を知る。	◎	
			危ないと思った時に助けてくれる人について知る。(警察・消防等)	◎	
	病気・事故	病気・事故	怪我をした時の対応について知る。	◎	
			支援者	支援者やボランティアについて知る。	◎
	福祉制度の利用	障害者手帳	障害者手帳について知る。	○	
			障害者手帳の利用や優遇措置等について知る。	○	
家庭生活・ 集団生活	人付き合い	家族	家族の役割について知る(家事分担、支えあい、団らん、癒し等)。	○	
			親の老後について知る。	○	
		友人	友人	携帯電話・メールの利用とマナーについて知る。	◎
				近所・職場	日常の挨拶の仕方について知る。
近所・職場	近所・職場	人や場面によってふさわしい話題があることを知る。	◎		

#### 4. 今後の課題

今年度本校高等部では、「くらし(生活知識)」の指導内容及び指導計画の見直しを行った。その中で、「改訂版 生活知識指導内容表(案)」を作成した。今年度は実際の授業の中で新たに作成した指導内容を検証するまでには至らなかった。また、指導計画の妥当性についても検証できていない。今後は、実際の授業の中で検証し、指導内容表の更なる絞り込みや訂正等を行っていきたい。

さらに、高等部の教育全体の中で各授業の位置づけを明確にし、生徒自身が将来の生活について主体的に考えられる指導形態を考えていく必要がある。



表 8 3年生の指導計画(案)

大分類	中分類	小分類	指導内容	3年	3年抽出	
経済生活	くらしとお金	上手な買い物の仕方	買い物の仕方を知る。	◎		
		金融機関や社会資源の利用	銀行や郵便局の機能、使い方について知る。 通帳やキャッシュカード、クレジットカード、電子マネーについて知る。	◎		
		生活設計・金銭管理	生活費について知る。(家計簿のつけ方等) 自分にあったお金の管理方法を知る。	○	○	
		危機回避・消費者教育	クレジットカードやプリペイドカード、電子マネー等の使い方と注意点について知る。 お金にかかわる危機、危機回避の方法について知る。(志穂尚法、イブタキ、池田重雄、阿しき朗等)	○	○	
	社会と経済	収入・労働と賃金	仕事と給料について知る。 給料明細について知る。	○	○	
		税の徴収と国の支出	税金の仕組み(払い方、戻し方)について知る。 税金の使われ方について知る。		○	
		年金とその問題	年金について知る。	○		
			年金の支払われ方や受け取り方について知る。 年金の手続きの仕方について知る。		○	
		流通と経済	値段の決め方について知る。 流通の仕組みについて知る。		○	
		貨幣の種類と価値	日本のお金、外国のお金について知る。 両替と為替、円高・円安について知る。		○	
	地域生活	地域のルール・資源	地域のルール	地域のルールについて知る。(ごみの分別や出し方等)	◎	
			学ぶ・遊ぶ	青年学級・大学公開講座・スポーツサークル・アビリンピック等について知る。	○	
		安全・安心	防災、防犯	災害の際の身の守り方について知る。 犯罪や事故を未然に防ぐ方法を知る。 危ないと思った時に助けてくれる人について知る。(警察・消防等)	◎	
			病気・事故	怪我をした時の対応について知る。	◎	
福祉制度の利用		支援者	支援者やボランティアについて知る。	◎		
		相談機関	相談機関について知る。	○		
		福祉サービス	障害福祉サービス(就労系サービス以外)について知る。		○	
家庭生活・ 集団生活	人付き合い	友人	携帯電話・メールの利用とマナーについて知る。 新しい友人の作り方を知る。	◎		
		近所・職場	日常の挨拶の仕方について知る。	◎		
			人や場面によってふさわしい話題があることを知る。	◎		
	冠婚葬祭		お祝い、ご不幸について知る。	○		
			場に応じた挨拶について知る。	○		

#### IV 参考文献

岩手大学附属養護学校・宇都宮大学教育学部附属養護学校・群馬大学教育学部附属養護学校・東京学芸大学教育学部附属養護学校(2000～2003)個別の教育的ニーズにこたえる教育課程と授業の実践 研究開発実施報告書(No1～No3)

- 東京学芸大学附属特別支援学校(2009) 研究紀要 No.54
- 東京学芸大学附属特別支援学校(2010) 研究紀要 No.55
- 東京学芸大学附属特別支援学校(2011) 研究紀要 No.56
- 東京学芸大学附属特別支援学校(2012) 研究紀要 No.57

「くらし（生活知識）」学習指導案

日 時：平成 26 年 1 月 24 日（金）10：00～11：00

対 象：高等部 2 年 10 名（男子 5 名、女子 5 名）

場 所：高等部 2 年教室、進路相談室

指導者：松本 晃（MT）、山本由佳（ST1）、高野裕美（ST2）

1. 単元名 「くらしとお金」

2. 授業設定の理由

本校高等部では、生徒の生活支援に関する内容を扱う中心的な授業として「くらし」を設定している。「くらし」の授業では、卒業後の自分自身の暮らし方、さらには生き方を主体的に考え、「自分から進んで行う生活」「生活の主体者は自分」ということを生徒が十分に意識できるような授業づくりを目指している。そのために様々なところで本人が選択をし、主体的に学習できるようにしている。また、生徒が支援を必要とする時どのように依頼してよいのか、分からない時の質問、困った時の相談の仕方や方法を学習することも重視している。

「くらし」は「調理」「被服」「住まい」「生活知識」という 4 分野で構成されており、クラス毎に学習を行う。実践的な活動を通じた技能や技術面の習得に重点を置いた「調理」「被服」「住まい」の 3 分野を「くらし実践編」と総称して、週一回約 2 単位時間（110 分）の授業を設定している。「生活知識」は社会生活に必要な幅広い知識を身につけることを中心的な内容とし、週一回約 1 単位時間（60 分）設定している。「生活知識」は、経済生活、地域生活、家庭生活・集団生活の 3 領域から構成されている「生活知識指導内容表」を基に、希望アンケート、保護者・生徒のニーズや実態等を関連させながら指導計画を立てている。

本時の対象生徒は高等部 2 年生 10 人である。1 年次には、主に家庭生活・集団生活について学習を行っており、経済生活の領域では買い物についての学習を行っている。2 年次に行う「経済生活」の項では主に「生活設計・金銭管理」についての学習が設定されている。保護者へのアンケートでも 7 名が生活に必要なお金について知ることを希望しておりニーズも高い。お金に関する生徒の理解や経験はさまざまであるが、いずれの生徒も自分の欲しい物を選択したり、買い物をしたりする経験は積んできている。しかし、自分の欲しい物がいくらするのか、現在の生活にいくらかかっているのか等、生活に関連するお金に対する理解は乏しい。

本単元は生徒の実態に応じて 2 つのグループを設定している。A グループでは、生活用品や光熱費等の学習を通して、生活の様々な場面でお金がかかっていることに気付くことをねらいとしている。B グループは買い物をする学習を繰り返し行い、お金を扱う経験を増やし、お金を身近に感じたり、お金と物の等価関係について理解を深めることをねらいとしている。両グループとも、事前に本人または保護者から興味のあることについて情報を収集し、題材として活用したり、身近に感じられるように体験を取り入れたりして意欲的に参加できるようにしている。また、自分の意見を伝え、認められたり、他者の考えに触れたりするために、発表する時間を保障している。

本時の A グループでは、一日の生活の流れを追いながら、お金がかかる場面等を明らかにしていく。また自分の欲しい物の値段を調べ、発表する。これらの学習を通して好きな物だけでな

く、生活の色々な場面にお金がかかることが理解できればと考えている。Bグループでは、これまで行った買い物の学習を振り返り、買ったものや購入場所の確認を行う。物とお金の等価関係についても迫れればと思っている。また、自分の好きな物や欲しい物を選び他者に伝えられるように写真やイラストを用いてまとめる。発表の場面で積極的な意思表示を期待している。両グループとも使用するワークシートには生徒の実態の合わせて直接書き込めたり、写真やイラストを貼っていったりしてまとめることができるよう工夫している。この学習を通して、自分の生活に興味関心をもち、3年次に行う生活費や、自分に合った金銭管理の方法、お金にかかわる危機回避の方法等への学習につなげていきたい。

### 3. 目標

- 生活に必要なお金に関する知識と技能を身に付ける。
- お金に関する学習を通して、主体者として生きていく素地を養う。

### 4. 指導計画

#### 1) グループ編成

グループ	Aグループ	Bグループ
生徒	A、B、C、D、G、H、I、J	E、F
教員	MT、ST2	ST1

#### 2) 指導計画

回数	実施日	学習内容	
		Aグループ	Bグループ
1	1/10	自分の好きな物や欲しい物について調べよう	買い物をしよう①
2	1/14	買い物をしよう	買い物をしよう②
3	1/17	生活に必要な物について考えよう	買い物をしよう③
4	1/24 本時	生活に必要なお金について考えよう 自分の好きな物や欲しい物を発表しよう	自分の好きな物をまとめて発表しよう

### 5. 本時の学習

#### 1) 本時の目標

- 生活にお金がかかることに気付く。
- 自分の欲しい物とその値段についてまとめ、発表する。

#### 2) 個人目標

生徒	実態	個人目標	指導の手だて	関連する個別教育計画の目標
A 高2 女子	・生活に必要な物にはお金がかかっていることを漠然と理解している。 ・欲しい物はあるが、値段の理解まで至っていない。	・通信費や電気代、ガス代等にお金がかかっていることを知る。 ・自分の欲しい物の値段がわかる。	・実際の公共料金の明細を提示して理解を促す。  ・インターネットから欲しい物の値段を調べ、まとめられるようにする。	

B 高2 男子	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活に必要な物にはお金がかかっていることを漠然と理解している。</li> <li>欲しい物は明確にできるが値段の理解は不十分である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>通信費や電気代、ガス代等にお金がかかっていることを知る。</li> <li>自分の欲しい物の値段がわかる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実際の公共料金の明細を提示して理解を促す。</li> <li>インターネットから欲しい物の値段を調べ、まとめられるようにする。</li> </ul>	
C 高2 女子	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活に必要な物にはお金がかかっていることを漠然と理解している。</li> <li>欲しい物は明確にできるが値段の理解は不十分である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>通信費や電気代、ガス代等にお金がかかっていることを知る。</li> <li>自分の欲しい物の値段がわかる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実際の公共料金の明細を提示して理解を促す。</li> <li>インターネットから欲しい物の値段を調べ、まとめられるようにする。</li> </ul>	お金の計算と概算ができる。
D 高2 男子	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活の様々な場面にお金がかかっているという理解はまだない。</li> <li>欲しい物はあるが、値段の理解まで至っていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活の中でお金がかかっている場面を知る。</li> <li>自分の欲しい物の値段がわかる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活場面を抽出し、具体的な場面を設定して提示する。</li> <li>チラシから欲しい物の値段を調べ、まとめられるようにする。</li> </ul>	
E 高2 男子	<ul style="list-style-type: none"> <li>3つ程度の選択肢の中から好みの物等を選ぶことができる。</li> <li>画像や実物を使って自分の好きな物を伝えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>選んだ物の購入場所、値段を知る。</li> <li>まとめたことを発表することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>選んだ物と購入場所、値段が記入できるワークシートを用意する。</li> <li>発表しやすいようにワークシートを工夫する。</li> </ul>	
F 高2 女子	<ul style="list-style-type: none"> <li>3つ程度の選択肢の中から好みの物等を選ぶことができる。</li> <li>画像や実物を使って自分の好きな物を伝えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>選んだ物の購入場所、値段を知る。</li> <li>まとめたことを発表することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>選んだ物と購入場所、値段が記入できるワークシートを用意する。</li> <li>発表しやすいようにワークシートを工夫する。</li> </ul>	
G 高2 男子	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活の様々な場面にお金がかかっているという理解はまだない。</li> <li>欲しい物はあるが、値段の理解まで至っていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活の中でお金がかかっている場面を知る。</li> <li>自分の欲しい物の値段がわかる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活場面を抽出し、具体的な場面を設定して提示する。</li> <li>チラシから欲しい物の値段を調べ、まとめられるようにする。</li> </ul>	
H 高2 男子	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活の様々な場面にお金がかかっているという理解は</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活の中でお金がかかっている場面を知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活場面を抽出し、具体的な場面を設定して提示する。</li> </ul>	卒業後にやりたい仕事や生活について考える。

	まだない。 ・欲しい物は明確にできるが値段の理解は不十分である。	・自分の欲しい物の値段がわかる。	・チラシから欲しい物の値段を調べ、まとめられるようにする。	
I 高2 女子	・生活の様々な場面にお金がかかっているという理解はまだない。 ・欲しい物はあるが、値段の理解まで至っていない。	・生活の中でお金がかかっている場面を知る。 ・自分の欲しい物の値段がわかる。	・生活場面を抽出し、具体的な場面を設定して提示する。 ・チラシから欲しい物の値段を調べ、まとめられるようにする。	お金の計算と概算ができる。
J 高2 女子	・生活の様々な場面にお金がかかっているという理解はまだない。 ・欲しい物は明確にできるが値段の理解は不十分である。	・通信費や電気代、ガス代等にお金がかかっていることを知る。 ・自分の欲しい物の値段がわかる。	・実際の公共料金の明細を提示して理解を促す。 ・チラシから欲しい物の値段を調べ、まとめられるようにする。	お金の計算と概算ができる。

### 3) 準備物

生活に必要なお金ワークシート、欲しい物ワークシート、パソコン、タブレット、板書用掲示カード、公共料金明細

### 4) 展開

時間	学習活動	指導内容	留意点	個人の目標	手立て
5分	○それぞれの教室に移動する。 ○挨拶をする。 ○本時の学習内容を聞く。	○自分の学習する教室がわかる。 ○授業の始まりを意識できる。 ○本時の学習内容がわかる。	○ST1 は E、F と一緒に移動する。 ○学習の流れを板書する。		
	<b>A グループ (高2教室)</b>				
	○生活に必要なお金について知る。  ○自分の好きな物や欲しい物についてまとめ	○生活のどの場面にお金がかかっているか気付くことができる。  ○自分の好きな物とその値段をワークシートに	○MT が進行する。 ○ワークシートや掲示物を用いて、一日の生活を振り返ったり、生活の一場面を切り取ったりして、どこにお金がかかるか意識できるようにする。 ○ST2 は D、I のワークシート記入の支援を行	<b>【ABCJ】</b> ○通信費や電気代、ガス代等にお金がかかっていることを知る。 <b>【DGIH】</b> ○生活の中でお金がかかっている場面を知る。  <b>【ABCDGIHJ】</b> ○自分の欲しい物の値段がわかる。	<b>【ABCJ】</b> ○実際の明細を提示して理解を促す。  <b>【DGIH】</b> ○生活場面を抽出し、具体的な場面を設定して提示する。  <b>【ABCIH】</b> ○インターネットから欲しい物の値段を調べ、

る。	まとめることができる。	う。 ○生徒の実態に応じたワークシートを用意する。		まとめられるようにする。 【DGJ】 ○チラシから欲しい物の値段を調べ、まとめられるようにする。
<b>Bグループ（進路相談室）</b>				
○これまでの学習を振り返る。	○これまでの学習で購入した物がわかる。	○ST1 が進行する。 ○実物や写真を用い、イメージしやすいようにする。 ○生徒の実態に応じたワークシートを用意する。	【EF】 ○選んだ物の購入場所、値段を知る。	【EF】 ○選んだ物と購入場所、値段が記入できるワークシートを用意する。
○自分が好きな物とその値段についてまとめる。	○自分の好きな物とその値段をワークシートにまとめることができる。	○ST1 は E、F と一緒に移動する。		
○高2教室に移動する。				
<b>A・Bグループ（高2教室）</b>				
○まとめたことを発表する。	○ワークシートにまとめた自分の好きな物や欲しい物とその値段を発表することができる。	○MT は生徒の実態に応じて発表者の補足をする。 ○ST1 は E、F の発表の支援を行う。	【EF】 ○まとめたことを発表することができる。	【EF】 ○発表しやすいようにワークシートを工夫する。
○授業のまとめをする。	○本時の学習を振り返ることができる。	○自分の欲しい物だけでなく、生活の色々な場面でお金がかかっていることを確認する。		
○挨拶をする。				

## 5) 評価

### (1) 個人目標の評価

生徒	個人目標	評価	コメント
A	・通信費や電気代、ガス代等にお金がかかっていることを知る。 ・自分の欲しい物の値段がわかる。	○ △	海外旅行先に悩み、値段の部分に時間をかけられなかった。
B	・通信費や電気代、ガス代等にお金がかかっていることを知る。 ・自分の欲しい物の値段がわかる。	○ ×	iPhoneの値段を調べることができなかった。
C	・通信費や電気代、ガス代等にお金がかかっていることを知る。 ・自分の欲しい物の値段がわかる。	○ ○	
D	・生活の中でお金がかかっている場面を知る。 ・自分の欲しい物の値段がわかる。	△ △	お金がかかる場面の理解は難しかった。
E	・選んだ商品の購入場所、値段を知る。 ・まとめたことを発表することができる。	○ ○	

F	・選んだ商品の購入場所、値段を知る。 ・まとめたことを発表することができる。	○ ○	
G	・生活の中でお金がかかっている場面を知る。 ・自分の欲しい物の値段がわかる。	○ ○	
H	・生活の中でお金がかかっている場面を知る。 ・自分の欲しい物の値段がわかる。	○ ○	
I	・生活の中でお金がかかっている場面を知る。 ・自分の欲しい物の値段がわかる。	○ ○	
J	・通信費や電気代、ガス代等にお金がかかっていることを知る。 ・自分の欲しい物の値段がわかる。	○ ○	

評価の目的 ・授業における個人の目標が達成できたかを評価する。

・次時の個人の目標設定の資料とする。

評価基準は、○△×の3段階で行い、コメントがあれば加える。

## (2) 授業の評価

項目	評価内容	評価
目標	1. 本時の目標は達成できたか。	○
	2. 本時の目標は適切であったか。	○
活動	3. 本時の目標にあった学習活動であったか。	○
手 だ て	4. 教材が適切であったか。	○
	5. 教材の提示方法は適切であったか。	○
	6. 教材の使い方は適切であったか。	○
	7. 教示方法は適切であったか。(わかりやすさ、口調など)	○
	8. 子どもへの援助方法は適切であったか。	○
	9. 集団の統制は適切であったか。	○
	10. 子どもの反応の捉え方は適切であったか。	△:生徒の意見を十分に拾うことができなかった。
TT	11. 教員間の役割分担とその連携は適切であったか。	○
学習 環境	12. 本時の時間配分は適切であったか。	△:前半に時間がかかり過ぎてしまい、後半の時間が短くなってしまった。
	13. 場面の設定は適切であったか。	○

評価の目的 ・本授業を評価することによって、次の授業の資料とする。

評価基準は、○△×の3段階で行い、コメントがあれば加える。

## (3) 個別教育計画運用の評価

生徒	個別教育計画との関連事項					
	個別教育計画からの目標	個人目標 達成度 評価	場面の 適切性 評価	手だての 適切性 評価	次時への 課題	個別教育 計画への 課題
C	お金の計算と概算ができる。	×:計算する課題を設定しなかった。	/	/	計算を取り入れる課題を設定する。	引き続き取り組む。
H	卒業後にやりたい仕事や生活について考える。	○	○:生活(余暇)の部分について考えた。	○	仕事、余暇含めた生活を考える。	/
I	お金の計算と概算ができる。	×:計算する課題を設定しなかった。	/	/	計算を取り入れる課題を設定する。	引き続き取り組む。
J	お金の計算と概算ができる。	×:計算する課題を設定しなかった。	/	/	計算を取り入れる課題を設定する。	引き続き取り組む。

評価の目的 ・個別教育計画からの目標と達成度、目標に対する手だて・指導場面が適切であったかを評価する。

・個別指導計画を見直す資料とする。

評価基準は、○△×の3段階で行い、コメントがあれば加える。

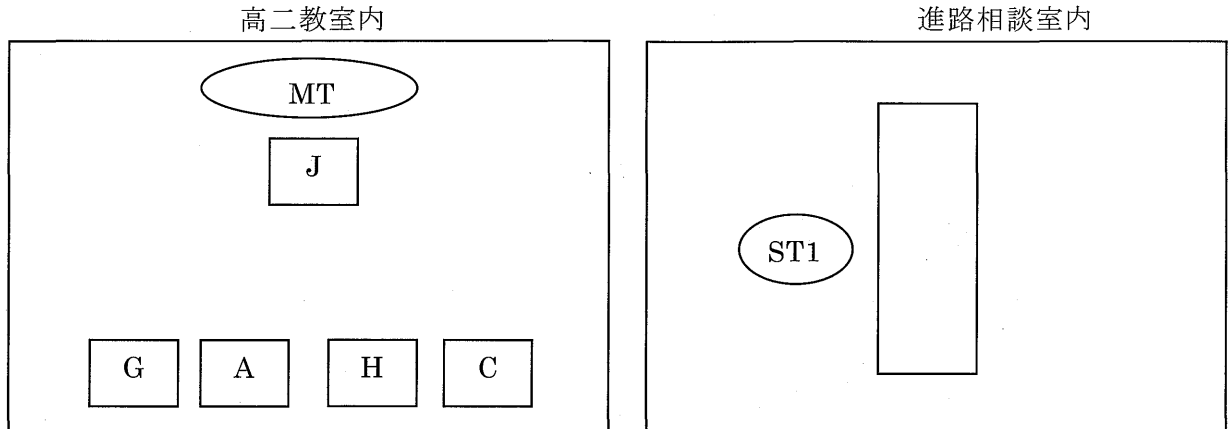
(4) 指導計画の評価

題材名：くらしとお金			総時間数：4時間			授業日：平成26年1月24日(金)		
指導形態に関して			指導内容に関して			時間数に関して		
生徒の理解度に合わせて3グループに分けて指導した方が良かった。			生活にお金がかかっていること、理解と併せて金銭感覚についての学習が必要であった。			本時の内容については2時間必要であった。単元全体でも6時間程度は必要である。		

評価の目的・単元、題材ごとの指導計画を評価し、教育課程見直しの資料とする。  
各評価項目ごとにコメントを記入する。

6) 備考

(1) 授業前半の配置 (高二教室、進路相談室)



(2) 授業後半の配置 (高二教室)

